

和歌山だよい

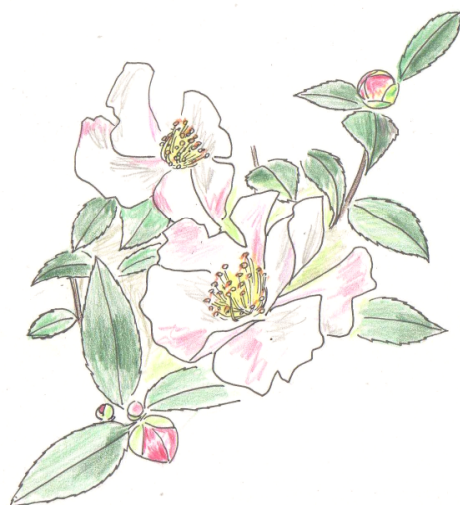
平成20年 12月号
(2008)



温州みかん (有田市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1～P2
2. 和歌山県政トピックス… P3～P10
3. お知らせ…………… P11～P12
4. ふるさと歳時記…………… P13



山茶花 (さざんか)

「陸奥宗光と紀州の遺伝子」

私は、外務省に少しの間だけ奉職しました(駐ブルネイ大使)。霞ヶ関の外務省の敷地の中に1人だけ銅像となって立っている人がいます。当県出身の陸奥宗光です。私は実は、知事になるまで不学にして、その持つ意味がわかりませんでした。

今は何となくわかります。近代明治国家にとって、不平等条約の改定と東洋の雄としての列強入りは、死活的な外交課題であったと思うのですが、彼は見事にこの端緒をつけました。そればかりか近代的な外交戦略と言えるものを確立した最初の外務省首脳であったと思います。結論だけ先走りすると、さらに、明治維新による近代国家作りのモデルは紀州藩にあったと言っても過言ではないということです。

私がこのことに気づいたきっかけは、初めて県立博物館に見学に行った時、明治初期の洋式軍隊の写真を見たことでした。聞いてみるとこれは、その時すぐ頭に浮かんだ長州の奇兵隊や山縣有朋の明治陸軍などではなく、明治2年から4年のれっきとした紀州藩軍隊であるとのことでした。そこから私が勉強し、たどり着いた結論が「明治維新は和歌山モデル」という先述の表現になるのです。そして、ここでも陸奥がグランドデザインを描いているのです。

脱藩後の陸奥は、坂本龍馬の右腕として活躍し、その構想力を吸収します。鳥羽伏見の戦いで幕府方と目された紀州藩主徳川茂承は京都に幽囚の身となりますが、陸奥が岩倉具視に「紀州をも許す新政府というイメージは諸藩の恭順には最大の武器」と説得することで許されます。それを恩に感じた藩侯は、陸奥ら改革派の施策を全面的に取り入れて藩政の思い切った改革を行います。すなわち、藩士の俸禄の10分の9の返還による莫大な財政収入により、海援隊以来の陸奥のコネクションで洋式銃を大量に購入し、プロイセンの軍人を指南役に雇い、百姓も含めた四民平等の軍隊を瞬時に作り上げてしまったのでした。装備もよく、よく訓練された紀州藩の軍隊は、たちまちのうちに全国最強の軍隊となり、その規模は薩長土肥の総数よりも多いくらいになりました。実はこの構想、すなわち地租改正、四民平等、洋式軍隊、廃藩置県などはその少し前、伊藤博文と陸奥の2人が明治維新の構想として政府に提出した建白書を実行したものでしたが、新政府はこの建白書を握りつぶしました。そればかりか「各藩の軍人は士族以外の者をもって充てるべからず」という通達を各藩に出ししています。

しかし、紀州藩はこれを無視してあつという間に強くなったのです。このままでは紀州藩の力に他は圧倒されてしまいますので、新政府は、政府自らが紀州藩モデルを統一的に採用するので、紀州藩軍は解散してそれに統合してくれという提案をし、これに紀州藩が乗り、当時の藩幹部はそっくり新政府の要職に入ってしまったのです。すなわち、明治維新のその後の中央集権の原型は明治2年から4年の紀州藩にあり、それは陸奥と伊藤の頭の中から出たと言いうるということです。

それでは何故このことが世に喧伝されていないのでしょうか。それは、薩長史観の

せいです。すなわち、新政府に入った紀州人は、割合早い時期に新政府を辞します。そして残った薩長の有力者によって明治維新の歴史が書かれていくのです。私はこのことから多くの教訓が引き出せると思います。

第一に、天下を睥睨するほどであった紀州 55 万石はなくなったけれど、紀州人はそれでぺちゃんこになどなってはいなかったということです。新政府の構想を考え、自藩でこれを実践して見せ、少なくとも明治政府の礎石も作ったと言えるでしょう。また、経済面でも明治維新のエネルギーを経済活動に生かし、いち早く産業革命の波に乗ったのも紀州の産業人でした。その時に世に出た人は和歌山以外で活躍し、子孫もそちらにおられる人も多いけれど、紀州人の遺伝子は変わっていません。和歌山でその時に成功した企業は、本年 100 年企業として表彰されました。我々和歌山の遺伝子は、頑張りようによってはこのような広い意味での「イノベーション」の能力を保証してくれていると信じてよいと思います。

第二に、我々はよく言えば徒党など組まないでも、一人ひとりの才覚で勝負する能力がある。別の角度から見ると、足の引っ張り合いで集団としては自滅しがちな傾向にあると言えましょう。我々は、よく自嘲気味に「和歌山の人は文句たれで、人の足ばかり引っ張って」と言いますが、どうもそういう方向に堕してしまいがちな欠点も、古来、持っているような気がします。これは、心して自戒しなければならないことでしょう。人の成功を素直に讃えること、そして、文句を言うばかりでなく皆で力を合わせることで、これによって和歌山は発展していけるのだと思います。

第三に、以上のことを学習したのは、生まれも育ちも和歌山市の私にとっても、知事になって勉強してからであったということです。以上のことが、「薩長史観」によって全国版の教科書的歴史から消されてしまったということは、ある意味よくあることだという気がします。しかし、それなら何故、県内版の副読本でも作って、県出身の子どもたちにだけでもこの名誉ある歴史を教えないのか、正直言って当時の教育に怒りを感じます。こういう郷土教育をしっかり行っている県もあると聞きます。我々の遺伝子には、このような歴史を生み出した立派な特質が備わっているのだと子どもたちが考えたら、その子どもはもっと大きな自信を持ち、向上心を高めるのではないのでしょうか。今、私が郷土教育をしっかりとやろうと教育委員会に強くお願いしているのは、このような背景があるのです。我々和歌山人にとって、大いなる可能性とちょっぴりの反省材料を、陸奥宗光と明治維新モデルから、私は、学ぶことができますと思います。数々の油断により、和歌山県はちょっと置いていかれた何十年かもありましたが、もう一度、全ての人が原点に立って前向きにひたむきに情熱を傾ければ、我々の遺伝子がまた我々に豊かな結果をもたらしてくれるでしょう。



「紀の国チャレンジド賞及びサポート感謝状」で受賞者と記念撮影をする仁坂知事

「チャレンジド」とはアメリカが発祥で神様自身が障害のある人達に対して克服できるか挑んでいる。その人たちが神様の挑戦に応じてこれを克服出来れば、その勇氣は凄く、立派な人であるというのが名前の基本になっています。

＊ 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●第85回近畿ブロック知事会議を開催、近畿2府7県の知事等が来県

【近畿ブロック知事会とは】

- ・近畿ブロック知事会は、今年6月に、新たに鳥取県が加わり、現在、2府8県で構成されています。（2府4県+福井県、三重県、徳島県、鳥取県の10府県）
- ・今年6月から約1年間、仁坂知事が会長を務めています。
- ・11月11日に第85回知事会議を和歌山市のロイヤルパインズホテルで開催し、仁坂知事が座長を務めました。

【昼食懇談会】

- ・知事会議に先立ち、海南市の温山荘園にて、昼食をとりながら各府県知事と懇談が行われました。
- ・東郷平八郎等の書のかかった格調高い大座敷で美しい庭園をながめながら、各府県知事の活発な議論がなされました。



【知事会議】

- ・仁坂知事就任後すぐ、和歌山県の新しい公共調達のあるり方を検討する委員会の座長として活躍していただいた、この分野における日本の識者としてナンバーワンの桐蔭横浜大学法科大学院の郷原信郎教授が、評価の高い和歌山県の新公共調達制度を引き合いに出しながら、「コンプライアンスで切り拓く公共調達の未来」と題した講演をされた後、公共調達制度改革について協議しました。

・さらに、「関西経済の活性化」について、「大関西」の観点からのインフラ整備や観光振興、科学技術基盤整備の重要性などについて議論が交わされました。関西は関東や中部と比べて特に道路整備が遅れており、関西経済の活性化のためには、インフラ整備が重要であるが、今までは各県がばらばらに整備要望などを出している。これを統合してグランドデザインを描いているのは、国の地方整備局だけだ。これでは地方分権の精神に反するので、知事会として、道路や鉄道等の重要インフラについて自分たちで自分たち関西の整備計画を策定し、国に対し各知事が協力して提言活動を行っていくことで合意しました。

・仁坂知事も、「関西が東京や名古屋に負けているのは、関西を大きく使えていないから。大関西のインフラとして、どこがどのように欠けているかをみんなで議論することが一番大事である」と発言しました。

・そのほか、「地方分権の推進」や「道路財源の確保」、「関西国際空港の国際競争力強化」など国に求める13項目の提言を取りまとめました。早速11月27日、28日には総務省・財務省・厚生労働省・国土交通省に要望を行いました。

・今後とも、関西を元気にするために、近畿各府県と連携を図っていきます。



● 東京大田市場でみかんのトップセールス ～早生みかんの出荷最盛期を迎え、食味と安全性をPR～

日時：平成20年11月28日（金） 6：40～

場所：東京都中央卸売市場大田市場（東京都大田区東海）

・本県みかんの主力である「早生みかん」の出荷が最盛期を迎えるのに合わせて、仁坂知事、JA和歌山県農会長、産地JA組合長らが法被姿でトップセールスを行ないました。

・産地代表として仁坂知事は、集まった多数の市場関係者に対し、「紀伊国屋文左衛門は嵐の中、命がけでみかんを東京に届けた。我々も、本当においしいみかんをお届けするのは使命だと考えている。他産地のみかんと食べ比べていただいて、和歌山のみかんのおいしさを味わってほしい。また、みかんをはじめ和歌山県産農作物については、残留農薬の二重検査を実施し、安全性についても自信を持っておすすめできる。」と挨拶をしました。



・今年度のみかん販売は、10月いっぱい出荷した極早生がやや苦戦したが、11月から出荷の始まった早生みかんについては、食べやすい食味と出荷量が少ないこともあり、200円/kg以上の単価で取引されている。



・セレモニー終了後の市場関係者との懇談会では、大多数の関係者から最近の和歌山産みかんを高く評価しているとの意見が出ました。しかし、一部の業者からは、選果基準についての注文や、東京市場を本気で取り組むのか決断すべき時期であるとの指摘もあり、今後の努力の方向が一層見えてきました。

（和歌山のみかん）

平成19年度産みかんの全国出荷量約95万トンのうち、本県のシェアは18%と全国1位。関西市場での占有率も1位だが、東京都中央卸売市場9市場での占有率は9%と都道府県別では6位となっている。

● 紀州ファスナー工業（株）が第42号（平成20年度）「グッドカンパニー大賞」受章

・11月に紀州ファスナー（印南町）が（社）中小企業研究センターの「グッドカンパニー大賞」を受章されました。

・紀州ファスナーは、単純な構造で緩まないナットを開発し製造販売している企業で、その技術を高く評価されています。ねじ部のゆるみともれを防止するねじロック加工技術は自動車業界のユーザーから評価されています。

・「グッドカンパニー大賞」は、昭和42年に創設され、全国の優良な中堅中小企業を発掘・顕彰することを通じて日本経済に寄与することを目的としています。

●中東6ヶ国大使が「次世代エネルギーパーク」を訪問

・12月5日（金）～6日（土）にかけて、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、バーレーン、クウェート、オマーンの中東6ヶ国の駐日大使が経済産業省の幹部とともに来県し、御坊市の日高港新エネルギーパーク「EEパーク」を視察しました。二階経済産業大臣が旧知の大使達に来県を勧めて下さったものです。

・EEパークのPR館で、仁坂知事や柏木御坊市長らとともに、御坊市立名田小学校児童19人が各国の手旗を振って出迎え、歓迎セレモニーを実施。仁坂知事や柏木市長があいさつを行い、児童代表から大使6人に花束が贈られました。記念撮影や植樹、児童との懇談の後、同パークを紹介するDVDを鑑賞し、施設内を見学。バイオマス発電の実験にも興味を示していました。

・この後、和歌山市のロイヤルパインズホテルで県と経済産業省主催の歓迎夕食会を開催。知事が歓迎のあいさつを行い、「新鮮な魚、蜜柑や柿、桃、梅、備長炭、紀州漆器など和歌山にはたくさんの名産があります。」と和歌



山を紹介。「たくさんの温泉もありますので、是非、白浜空港を活用して自家用機でお越しいただきたい。」と温泉のPRとともに、空港利用の呼びかけも行いました。会には、県内のエネルギー関連の企業や団体の代表者も出席し、大使の皆さんと交流を深めていました。予算委員会の出席のため会には間に合わなかった二階大臣も駆けつけ、翌日の朝食会も行われました。

●和歌山工業高等専門学校が「学生対抗ソイルタワーコンテスト」で2年連続総合優勝

・11月22日（土）に、千葉県船橋市の日本大学船橋キャンパスで行われた第3回学生対抗ソイルタワーコンテスト（（社）地盤工学会関東支部主催）で、和歌山工業高等専門学校チームが、東京大学、横浜国立大学、中央大学、日本大学等の有力大学を押さえて総合優勝に輝き、堂々の2連覇を達成しました。

・コンテストでは、大学や高等専門学校などから計1



1チームが参加し、土質力学の専門知識を活かして、山砂、碎石、ロームなど与えられた5種類の材料と水を自由に配合してタワーを製作し、強さや軽さ、高さ、美しさを競いました。

・総合優勝の和歌山工業高等専門学校チームのタワーは、強度で他のチームを大きく引き離して1位になるとともに、地元につながる安珍清姫伝説をモチーフにするなどの芸術性でも高い評価を受け、ソイルタワー値（強度）部門と Artistic（芸術性）部門の2冠を

今月の和歌山県政トピックス

達成しました。

・また、このところ2年連続で全国2位と大健闘の同校ロボットコンテストチームは、今年も見事全国大会に出場を果たしましたが、準々決勝で優勝チームに敗れ、ベスト8で涙をのみました。

・12月21日には、御坊市で、第2回目となる「きのくにロボットフェスティバル2008」が開催され、多くの小中学生・高校生が参加する予定です。

● 漫画「美味しんぼ」原作者 雁屋 哲（かりや てつ）氏が「日本全県味巡り 和歌山編」のため和歌山取材

・10月27日～31日と11月10日～14日の2回にわたり、原作者の雁屋哲氏が和歌山県を取材に訪れました。郷土料理を作る婦人グループや漁師さん達との交流を図りながらうづぼ料理、なれ寿司、精進料理などを取材し、「各地で伝統料理を守っている方々のパワーは凄い」と感心していました。

・最終日の11月14日には県庁を訪れ（写真）、仁坂知事に取材中のエピソードや和歌山県の郷土料理の素晴らしさに感動したことなどを伝え、おもしろい漫画が書けそうだと今後の意欲を伝えました。知事は「和歌山県を取り上げてくれた事に感謝するとともに、広い和歌山県の取材でお疲れでしょうが、しっかりと本県をPRして下さい」と話しました。

・なお、「美味しんぼ」は3月から「小学館『ビックコミックスピリッツ』」に3ヶ月連載され、その後、単行本103巻として発刊される予定です。



● 地域紹介・観光ボランティアガイド全国大会（南紀熊野田辺）開催

・11月20日～21日の2日間、田辺市において、標記全国大会が盛大に開催されました。本大会は、平成8年度から始まり今回で13回目の開催となりますが、世界遺産登録の地の開催は初めてということもあり、全国各地から約800名もの方にご参加をいただきました。

・今大会では初の試みとして、田辺、龍神、本宮の3エリアの会場分散型により行われ、さらに、いくつかの分科会では実際に世界遺産の熊野古道をガイドを伴って歩き、大変好評を得ました。

・全体会の場では、仁坂知事は「全国を回られることにより、ご自身を高められ、その成果を地元での案内にお役立て下さい」とのあいさつを行いました。その後、和歌山県世界遺産センター速水盛康主任から「熊野信仰と曼荼羅絵解き」と題した特別講座があり、ユーモアを交えながらの講義により、ご参加の皆さんに熊野信仰についての理解を深めていただきました。

● 双子のパンダの名前決定

・白浜アドベンチャーワールドで、9月13日に生まれた双子のパンダの名前が雌「梅浜（メイヒン）」と雄「永浜（エイヒン）」に決定されました。国内外から約1万通の応募がありました。

・羽田空港から南紀白浜空港までの70分。皆さんもこの機会に愛嬌のある可愛い、赤ちゃんパンダを見に来ませんか？ ゆっくり温泉にでもつかりながら。これからはクエや伊勢エビが美味しい季節になります。



永 浜



梅 浜

●和歌山県職員採用Ⅰ種試験で特別枠採用を実施

・県では、文化や学術、社会貢献、スポーツなどで、優れた実績・成果を収め、その過程で培われた意欲・行動力・精神力などを和歌山県のために活かしたいというバイタリティ溢れた人材を採用するために来年度から和歌山県職員採用Ⅰ種（大学卒業程度）試験の一般行政職に特別枠を設けることとしました。

・これは、普段の学業や日常生活だけでは得ることのできない秀でた能力を持った人材を幅広い分野から発掘することが狙いで、対象となるのは、分野を問わず、人に誇れる実績や成果、経験などを有する人です。

例えば、高度な語学能力を持つ人や青年海外協力隊など高度な社会貢献活動の経験がある人や国際・全国レベルのスポーツ大会で優秀な成績を収めた人などです。

・試験方法は、従来行っている筆記試験などに加えて、今までの実績や成果、培った能力などに関する自己アピールを行ってもらう予定です。募集人数は、一般行政職の募集人数の1割（5名）程度とし、今後、具体的な試験内容など詳細について検討して、4月中旬に詳しい試験案内が人事委員会から発表される予定です。

●和歌山県職員採用説明会を開催

・11月25日、県職員の採用説明会を和歌山市内で開催し、146名の参加者を前に、仁坂知事は「チーム和歌山の精神を持つ人を求めたい。

「Service」県民のために献身が出来る人、
「Mission」使命達成に情熱が持てる人、
「Innovative」創意工夫の出来る人、「Local」郷土愛を持っている人、「Effective」効率的に出来る人、そういう人が県には必要で、オン・ザ・ジョブ・トレーニングで将来伸びていくと思っている。」と話しました。

・本採用説明会は東京でも開催しました。その他人事委員会では、希望者に、県職員が県庁内を案内したり質問に答える「県庁職場ガイド」を実施したり、メールマガジン「和歌山県職員採用試験情報」を提供したりしています。

・ちなみに、本年度の一般行政職Ⅰ種（大卒程度）の競争率は10.4倍でした。



●「企業の森」事業に4団体が参画し、46箇所に

・本県が進める「企業の森」事業に新たに「さわかみ合同会社（101年の森）」と「和歌山県信用保証協会（信用保証の森）」が参画することになり、11月21日に県庁で「森林保全・管理に係る協定の調印式」を行いました。また、「和歌山県オールトヨタ（やすらぎの森）」と「株式会社富士住建（富士住建の森）」は12月15日に調印式を行いました。

・「企業の森」は県内で現在42箇所あり、今回のさわかみ合同会社・和歌山県信用保証協会・和歌山県オールトヨタ・株式会社富士住建の参画で46箇所となります。県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。

●野球関連ニュース

●「プロ野球関西独立リーグ・紀州レンジャーズの監督に本県出身の藤田平氏が就任」

・藤田さんは市和歌山商業高等学校の野球選手として活躍され、阪神にドラフト2位で入団後、主に1番や3番の主軸を打ち、阪神打線を支えました。また、安打数通算2064本を達成し、阪神の生え抜き打者としては初の名球会入りとなりました。



・先日県庁を訪れた藤田さんは「優勝を目指したい。四十数年ぶりに和歌山に帰ってきて野球が出来る。わくわくしている。試合で他府県に行く機会もあるので、和歌山のPRをしたい」と話されました。

左：藤田監督

右：木村球団代表（箕島高校で投手として活躍し、春夏連覇を果たす）

＊「紀州レンジャーズ」は、2008年に和歌山県に発足した野球のクラブチームで2009年から関西独立リーグに加盟することが決定しています。

●「海草中学（現向陽高等学校）出身の島清一投手が野球殿堂入り祝賀会開催」

・今年1月に戦後60年余年を経て、和歌山県出身で戦火に散った伝説の左腕嶋清一投手の偉業が認められ、野球殿堂入りされました。そして、終戦記念日である8月15日、夏の全国高等学校野球選手権大会開催中の甲子園球場において、野球殿堂特別表彰の表彰式が行われ、改めて大投手である嶋投手の活躍に思いを馳せるとともに、平和な時代の尊さを胸に刻みました。

・11月30日、和歌山市内で「嶋清一投手を偲ぶ会」が開催され、海草中学、向陽高校、明治大学野球部の関係者など大勢の方々が集まりました。

嶋投手は、第25回全国中等学校優勝野球大会（現・全国高等学校野球選手権大会）で前人未到の全5試合を完封、準決勝・決勝では2試合連続無安打無得点試合で優勝しました。

●宝くじスポーツフェアドリームベースボール開催

・平成20年11月16日（日）、マツゲン有田球場で宝くじスポーツフェアドリームベースボールが開催されました。この大会は、宝くじの普及広報を目的として開催され、本県では4回目の開催となります。大会は、約4000人の観客らで賑わいました。

・仁坂知事は、地元箕島高校は東尾選手をはじめたくさんの名選手を輩出しているこの地でドリームベースボールが開催されることは大変意義深いと挨拶しました。

・開会式に引き続き、名球会・OBクラブチーム（ドリームチーム）と有田市選抜チームとの対戦も行われ、試合に先立ち、知事らによる始球式が行われました。

・この試合には、本県出身の藤田平さん、東尾修さん、山崎慎太郎さん、垣内哲也さんが出場し、試合は3対0でドリームチームが勝利しました。



挨拶する、金田正一さん

「祈りの道 サンティアゴ巡礼の道と熊野古道」東京会場がいよいよ開幕！

・和歌山県とガリシア州（スペイン）は、「熊野古道」と「サンティアゴ巡礼の道」の姉妹道提携10周年を契機として、両巡礼道の世界的な認知度の向上と、巡礼道に携わる人たちの交流促進を目的として国際観光共同プロモーション事業を展開しています。

・既に、9月の本県田辺市を皮切りに、フランス、スペインにおいて、写真展を核にしたプロモーション活動を実施してきました。そしてこの度、2008年度の最後を飾るべく、来る12月16日から来年3月15日まで、東京国際フォーラムの相田みつを美術館にてプロモーション活動を行います。

・東京会場では、日本の写真家六田知弘氏が東洋の目から見た「サンティアゴ巡礼の道」を、スペインの写真家ルイス・オカニャ氏が西欧の目から見た「熊野古道」をそれぞれの感性で撮影した写真展の他、特別企画展「相田みつをこころの道」、写真家によるギャラリートーク、祈りの道講座、和歌山県出身の若手演奏家によるギャラリーコンサートなど様々なイベントを実施します。詳しくは県HPをご覧ください。皆様のご来場をお待ちしています。

東京会場ホームページ：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/tokyo.html>

● ブルネイ・ダルサラーム国の高校生が和歌山県を訪問

・「21世紀東アジア青少年大交流計画」の一環としてブルネイ・ダルサラーム国の高校生が下記のとおり和歌山県を訪問しました。

訪問期間（県内）：平成20年12月3日（水）～12月8日（月）

※12月1日に東京へ到着、12月10日に東京から帰国

訪問団：高校生13名（男子7名、女子6名）、引率者2名 計15名

訪問先：和歌山県庁（知事表敬、議場見学）、花王工場・紀州漆器伝統産業会館見学、
県立笠田高校との交流、みかん狩り、稲むらの火の館見学 等

・12月3日には仁坂知事を訪問し、懇談を行いました。

・引率の先生からは「関西国際空港から和歌山への移動中、緑が多く景色がきれいだったことが印象的でした。今回の来日により日本とブルネイの友好を深めたいと思います。」とのご挨拶が、また生徒さんからは「来日前から和歌山に来ることを楽しみにしていました。新しい体験やこちらの食べ物も楽しみです。滞在中のプログラムを通してたくさんの友達を作りたいです。」とのご挨拶がありました。

・知事はブルネイ大使時代の思い出として「大使館のパーティでブルネイの学生が Kiroro の歌を歌ってくれました。友人への尊敬の気持ちや未来への期待など教育上よい意味を持つ歌だと思い、教育大臣に説明したところ大変感銘を受けておられました。」と語り、また「県レベルでも青少年の交流を行い、日本とブルネイの相互関係を構築していきたい。ブルネイは英語がよく通じるし、治安も良いから青少年の派遣も安心して実施できると思います。」と挨拶しました。

● 県立医科大学の入学定員を10名増員

・和歌山県立医科大学は県内唯一の医師養成機関として、幅広い高度な医療技術と豊かな人間性を備えた優秀な医療人の育成に努め、また、附属病院は地域の中核病院として、高度で先進的な医療サービスを提供し、地域医療に大いに貢献しています。

・医学部の入学定員は、本年度より国の「緊急医師確保対策」に基づく25名の増員を行い85名となりましたが、今年6月に閣議決定された「経済財政改革の基本方針2008」を踏まえた入学定員増が行われることになり、和歌山医大はさらに10名の定員増が認められ、来年度からは95名の入学定員となります。

・今後は養成した医師の地域への定着を一層図ることで、深刻化する医師不足の解消や地域医療の充実が期待されます。

● レジ袋の無料配布を中止する協定を締結

・環境負荷の低減を図るため、12月2日、県と21の事業者が来年1年1月23日から170店舗で一斉にレジ袋の無料配布を中止する協定を締結しました。

・わかやまノーレジ袋推進協議会では、平成23年3月末までにマイバックの持参率80%以上を目指します。

・レジ袋の収益金は、協議会を通じて環境保全活動に役立てるとともに、それぞれの事業者において、様々な形で消費者に還元されます。

・なお、県内全域でのレジ袋無料配布中止実施は全国4番目、関西では初めての取り組みとなります。

・仁坂知事は、「消費者の皆さんにも参加事業者にも損にならないように皆さんの努力で取り組みを達成していきたい。」と述べました。



◇和歌山県内のレジ袋枚数（年間）

全国：約300億　和歌山県：1億1千万枚（推定）

1億1千万枚のレジ袋を削減すると・・・

1, 100 tのごみ減量（レジ袋1枚10 g）

5, 115 tのCO2削減（レジ袋1枚のCO2排出量：46.5 g）

スギの木約37万本分のCO2削減（50年生スギ人工林のCO2吸収量：14g/年）となります。



どこにも負けない！みかんだったら和歌山県

和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

師走の足音が聞こえてくると、温州^{うんしゅう}みかんの季節も本番です。和歌山県のみかんは、9月中旬の極早生^{ごくわせ}温州から始まり、12月の味がしっかりのった晩生^{おくて}（普通）温州まで生産者は収穫作業に追われます。

みかんの樹は隔年結果といって、一般的に実がたくさんなる年と少ない年が交互におこります。

今年はその少ない年にあたり、全国的にみて昨年の8割とやや少なめですが、果実の着色・肥大は良好で、酸切れも良く糖度も高いおいしいみかんに仕上がっています。



急傾斜の段々畑で美味しいみかんが作られます。

～このようにみかんを採ります～

全国にその名が知られている有田みかんの産地で、パチッ、パチッと軽快なハサミの音が響いていました。

なんと驚いたのがこのみかんの採り方です。片方の手だけで支えながら切り取るこのはさみの使い方、ちょっと見ただけではなかなか真似が出来そうにありません。

このような採り方は、有田地方だけなんです。



落ちないように支えます。

～ちょっと小ぶりが人気～

有田みかんがたくさん揃っている有田郡有田川町のファーマーズマーケット「吉備どんどん広場」を訪ねました。

お店はただ今シーズン真っ最中で、みかんを買うためにやってきた大勢のお客様で大賑わい。

おいしいみかんは小粒というのがお客様の間でも評判で、小ぶりのみかんが買えるのはファーマーズマーケットならではの。甘さと酸っぱさのバランスが絶妙なんです。



お店の北畑さん。親切にアドバイス



～1日2個食べて、冬も元気に！～

みかんには、β-クリプトキサンチンが豊富に含まれるほか、ビタミンC、カリウム、食物繊維など重要な栄養成分も多く含まれており、健康維持にみかんは欠かせません。

1日2個は、みかんを食べましょう。

～みかんの皮の使いみちいろいろ～

コタツでみかん、気が付けば机の上は皮だらけ。そんな経験ありませんか？でもその皮、こんなに使いみちがあるのです。

【みかんの皮を使った入浴剤】

天日で乾燥させたみかんの皮をガーゼなどの袋に詰めて、お風呂に浮かべます。体が温まり、香りとともにリラックスできること間違いなしです。



みかん坊やも「へえ～！」

【みかんの皮を洗剤がわりに】

みかんの皮には酸のほかに天然の油が含まれています。ツヤを出す、汚れを落とす、ニオイを消すなど、お掃除にも持ってこい。皮の黄色い部分をすりつけるだけで油性ペンの跡など簡単にピカピカになります。

作ってみよう！みかん料理

●豚バラのみかん煮 () は4人分の分量

- ①豚ばら肉(320g)は一口大に切り、熱湯をかけ油抜きする。人参(100g)は皮をむき、5ミリくらいの輪切りにする。
- ②みかん(3から4個)を絞り、鍋に①を入れ、砂糖(大さじ2/3、塩・こしょう少々)をふる。ばら肉を返しながらか、中火で焼く10分煮る。煮汁が少なくなったら、ふたをし、煮詰まったら絡めるように仕上げる。
- ③皿に水菜をしき、②を盛り付ける。



食卓にはぜひ旬のものを。

和歌山県では、和歌山の特産品を購入できるインターネットショッピングモール「ふるさと和歌山わいわい市場」を運営しております。旬のみかんをはじめ、農産物のアイテムもいっぱい、産地直送でお届けします。

今ならお歳暮キャンペーンとして、全国送料無料も実施中！是非ご利用下さい。今すぐアクセス→ <http://wiwi.co.jp/ichiba/>



「ミニ知識」(橋本(きつもと)神社)

海南市にある橋本神社には、橘の木が植えられています。日本神話には、垂仁天皇の命で、不老長寿の霊果(現在のみかんの原種：橘)を持ち帰り、橋本神社の「六本樹の丘」に植えたと言われています。

～ みかん、太刀魚、除虫菊 有田市 ～

みかん

有田市といえば有田みかん。慶長年間（1596～1615）には、既に上方（京都・大阪）に出荷されていたという昔から人気のおいしいみかんです。

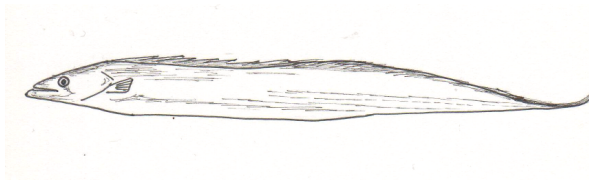
ところで、この有田みかん、どうしてこんなに美味しいのでしょうか？その訳は、有田地方の温暖な気候と独特の段々畑にあります。「温暖な気候」はみかん栽培にとっても適していて、「段々畑」では太陽の光をたくさん浴びます。それでこの地方では美味しくて良質のみかんが育つのです。

ビタミンが多く体にも良い有田みかんにはファミリーがあって、普通の有田みかんは今の季節に販売されていますが、いよかん、清見、ハウスみかんなど、みかんファミリーがほぼ一年中販売されています。

11月～12月には、黄金色に輝く一面のみかんの景観がすばらしく、ジャンボ壁画「あり太君」やかんきつ栽培の歴史と現状がわかる「みかん資料館」もあり楽しい。

近年は、小中学生の農業体験学習も行われています。

太刀魚



「太刀の形をしているから」「立ち泳ぎをするから」など名前の由来には諸説ある太刀魚。有田市は日本一の漁獲量を誇ります。

大きいものでは、1.5mほどもある太刀魚は切り身で販売されています。

歯や骨を形成するリンなどのミネラル、ビタミンなどを含み、筋肉や脳、神経、肝臓などにもよく、冷え性、肌荒れなども改善するともいわれている、とても体に良い魚なのです。

美味しく食べるには、刺身、塩焼き、照り焼き、その他太刀魚寿司もあります。また、新鮮な太刀魚はマニキュアの原料にも用いられます。

除虫菊

除虫菊は蚊取り線香の原料となるキク科の植物。原産は地中海のアドリア海東岸。アメリカのH.E. アモア氏から、明治時代に除虫菊の種子を贈られ、和歌山県有田市出身の上山英一郎氏（大日本除虫菊創業者）でその種を育てて渦巻型の蚊取り線香を発明しました。

そして上山氏は除虫菊を日本各地に広めました。

有田市ホームページ <http://www.city.arida.lg.jp/>

～編集後記～

12月に入って急に寒さが厳しくなってきました。二十四節気の大雪の前日、12月6日には和歌山市内でも平年より25日も早く初雪が観測されるなど、真冬並みの寒さが訪れました。そんな中、先月号でご紹介させて頂いた、貴志駅の駅長「たま卿」もサンタクロースの格好をして活躍しています。

皆様方は、年末年始いかがお過ごしになられるのでしょうか。和歌山にも帰省される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、平成20年を振り返ってみますと、和歌山県は、仁坂知事を先頭に、産業、農業、福祉、医療など、あらゆる分野にわたって、職員一丸となってとどまることなく努力して参りました。県内の明るい話題として、白浜アドベンチャーワールドの双子パンダの誕生、北京オリンピック湯元選手の銅メダル獲得、「関西独立リーグ」への紀州レンジャーズの参入などがありました。こうした県政の歩みを着実に進めることが出来たのも、あらゆる団体、様々な分野において活躍されている方々、101万の和歌山県民、そして県外からエールを送って頂いている皆様に支えられた賜であると感じています。

この「和歌山だより」もふるさと和歌山と県外に在住されます皆様方を結ぶきっかけになればと思い、4月から皆様に送付させて頂きました。様々の情報をあらゆる方法でお伝えさせて頂きましたが、いかがでしょうか？皆様の支えにより早くも第9回目の発行となりました。来年もスタッフ一同頑張っていきますのでご支援をお願いします。

そして来る新しい年が皆様にとりまして、よいお年となりますことを心からお祈りいたしまして、年末のご挨拶とさせていただきます。

知事室秘書課長 鈴木敏彦

★今月から「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。
Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援寄附

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。



2008年(平成20年)12月 NO.9

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022